

## 報告記



## 政府財務の透明性向上に関するセミナー報告

IPSASBボードメンバー／公認会計士

いざわ けんじ  
伊澤 賢司

IPSASBテクニカル・アドバイザー／公認会計士

ふきや たけお  
落谷 竹生

2017年3月6日(月)に、国際通貨基金(IMF)の本部(ワシントンD.C.)で、政府財務の透明性向上に関するセミナーが開催された。国際公会計基準審議会(IPSASB)は、今年で創設20周年を迎える。このセミナーは、その祝賀行事の一環として、IPSASBのオブザーバーかつ資金提供者であるIMF及び世界銀行グループとの3者共催で、IPSASBの2017年3月会議の前日に開催された。

本セミナーでは、開会あいさつ、IPSASB議長による基調講演の後、世界銀行、IMF、IPSASBの各関係者による大きく3つのセッションが行われた。

まず、世界銀行の関係者により、政府財政の持続可能性、公共投資の管理における発生主義会計の役割、財政リスクとバランスシートのテーマで報告が行われた。

続いて、IMFの関係者により、政府による財務報告書の活用増加、発生主義情報提供上の課題、政府財政統計のテーマで報告が行われた。

最後に、IPSASBの関係者により、発生主義会計に必要な根拠資料、PFM(公共財務管理)改善に向けたコンサルティング、関係者の教育研修のテーマで

報告が行われた。

世界銀行、IMFともに、ギリシャ危機のような国際金融危機を防止するためには公共財務管理の向上が重要であること、そのためにIPSAS等の発生主義会計がどのような役割を果たすことができるのかを強く意識しており、本セミナーの各テーマもそのような問題意識を色濃く反映したものとなっていた。

本セミナーの内容では、以下の事項が日本の政府会計にも関連すると思われる。

- 発生主義会計は、結果報告だけでなく目標管理に使用することが重要である。例えば、ニュージーランドでは国富を増やすことを目指した。
- インフラ資産の維持・補修に関する課題は世界共通である。OECD加盟国における対応方法の分析が役立つ可能性がある。
- 財務諸表外の偶発負債の巨大化に対し、どのように開示するかが課題である。例えば、年金に関する債務、外郭団体における債務等である。
- PPPの効果の全体をとらえるには、政府のコスト削減だけでなく、マクロ経済的な分析も有用である。